

近所の農家さん



ひらの
平野 剛さん
(44)

まゆみ
真由美さん
(45)

(東秋留地区)

平野剛さんは2021(令和3)年に大型ダンプの運転手を辞め、奥様の真由美さんと一緒に就農した。

きっかけは、真由美さんの実家が所有する農地や山林の管理を手伝う中で、自分の作った農産物を消費者に買ってもらう喜びが農業にはあると感じたこと。また、近所には高齢の農家も多く、耕作で



きなくなつた畑を使って欲しいと頼まれることがある。自身が就農し、耕作できなくなつた農地を引き受け、農地を存続させていくことは、地域への貢献にもつながると考えたからだ。

22(令和4)年に実践力養成セミナーに参加して農業技術を学び、23(令和5)年からF&Uセミナーを受講している。真由美さんも同セミナーの卒業生だ。23(令和5)年1月から秋川ファーマーズセンターの会員として出荷している。

主力商品はトウモロコシと栗。昨年、トウモロコシ街道として知られる、五日市街道沿いの畑の一角に「とうもろこし街道直売所」を設置し収穫したてのトウモロコシを販売した。



街道沿いの直売所

毎回2時間ほどで完売する盛況ぶり、手ごたえを感じた。今年は昨年の2倍量の種を用意し、播種時期をずらしながら長く収穫できるように計画している。

栗は昔からの木が多く早生品種中心だったが、段階的に収穫出来るよう古い木は伐採して晩生品種を新たに植えた。心掛けていることは、出荷する野菜の品質。思わず手に取りたくなるような良品を選別して出荷している。そのため固定客やケーキ店などから注文を受けて直接販売をしている。

「品質にこだわると無駄になる野菜も多くなる。今後は、ピクルスや焼き栗などの加工品の製造も視野に入りたい」と話す。

研修やセミナーで勉強していても実際に栽培してみると難しいことばかり。3人の子どもの中心の生活のため、夜の遅い時間にライトをつけて種まきをすることもあった。先輩農家に相談したり、ときにはユーチューブで情報収集した

り、夫婦で協力し、相談しながら試行錯誤している。



目印のロゴシール

平野さんの野菜の目印は、かわいい女の子のロゴシール。剛さんのお姉さんが作成した、消しゴムハンコのシールで、出荷する野菜には必ず貼ってある。お姉さんはSNSも担当しており、インスタグラム(@kiuidaikouenkousatsen50)で平野さんの農業の情報を発信している。

就農して間もなく、子どもも小さいため、休みがなかなかとれないが、今は子どもと畑にいる時間がとても楽しく、家族みんなでの洋服も揃えた。「今後は作業の効率をあげて休みを作りたい。販路の拡大や加工品の製造を目標に、安定した農業経営を確立したい」と今後の意気込みを語った。